

第49回宮城県芸術祭

絵画展・写真展で開幕

—復興元年、公益法人移行も見据え—



発行
 社団法人
宮城県芸術協会
 (郵便番号 980-0102)
 仙台市青葉区二日町16-1
 二日町東急ビル5-B
 電話 (022) 261-7055
 F A X (022) 214-5184
 E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
 発行者 早坂貞彦



巡回展は美里・村田・大崎で開催

第四十九回芸術祭の開場式は、未曾有の大震災から約一年半を経過した九月二十八日

午前九時四十五分から、せんだいメディアテーク五階の写真展会場前で行われた。式典には主催七団体の宮城県芸術協会、宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、河北新報社、宮城県文化振興財団の代表と来賓、芸術協役員、絵画・写真部を中心とした会員らが多数出席した。

芸術祭会長の早坂貞彦芸術協会理事長が「芸術祭では公益社団法人移行に向かう活動の一環として公募展を併催し若い層に門戸を広げたい」とあいさつ。「困難なときほど芸術は必要とされるものであ

り、大震災の復興支援の事業として。いま多くの施設では指導者不足などの不便を来しているが、芸術協会はこれを補う役目を担っているのではないかと述べた。

また、芸術祭名誉会長の河北新報社代表取締役社長一力雅彦氏は「特に震災後に果たす文化・芸術の役割は大きく被災者の多くの皆さんに芸術祭においていただき、希望と勇気を与えられれば幸いです」とあいさつした。

引き続き絵画部の桜井忠彦主任と写真部の笹川義信主任が作品紹介を行い、会員の展示作品数は絵画部が二百八十九点、写真部が七十九点であったこと、写真部の作品は大型化の傾向にあ

ることなどの説明があった。この後、主催団体代表者等によるテープカット「写真」で芸術祭が開幕した。続いて開場式出席者による作品見学に移り、絵画・写真部員による熱心な説明に聴き入った。

また、文学散歩は芸術祭の開催に先立って実施されたほか、芸術祭期間中に仙台市内で茶会・長唄演奏会・音楽会・文芸祭が相次いで開催され、文芸年鑑も発行された。

なお、巡回展は、工芸展が美里町近代文学館、写真展が村田町民体育館、絵画・書道展が大崎市田尻沼部公民館でそれぞれ開かれた。

11月29日に閉会式

ホテルメトロポリタン仙台

第四十九回宮城県芸術祭の閉会式は、十一月二十九日午後六時から、ホテルメトロポリタン仙台で開催される。授賞式のあと各賞の受賞者を囲んで、来賓と芸術協員の懇親会が開かれる。会員同士が部

門を超えて交流できる数少ない機会でもあり、受賞者もとより多くの会員の参加が望まれる。会費は六千円(当日会場受付で納入)。参加希望者は十一月十九日(月)まで、芸術協事務局へ。

公益法人移行申請を承認

臨時総会新定款など議決

宮城県芸術協会は八月十八日、せんだいメディアテーク（仙台市青葉区）で平成二十四年度臨時総会を開き、公益社団法人移行申請に関する議案の審議を行った。執行部提案の議案は、すべて満場一致で原案通り可決された。

総会は午後二時開会。出席者百二十四人、委任状千四百十九人で、定足数（七百三十九）を満たしたことが確認された後、議長に池田友信理事を選任した。議事録署名人には浅野治志・門間純子両評議員が指名され、早

坂貞彦理事長があいさつを述べて議案の審議に入った。第一号議案の「公益社団法人移行申請書の内容について」、第二号議案の「公益社団法人移行に伴う定款の変更案及び関連規程の制定について」の内容を執行部が説明。文言などについて二、三の質疑が交わされた後、両議案を満場一致で承認した。また、県への申請書提出後、審査の

過程で修正などの必要が生じた場合は、理事長に一任することも決め、午後四時過ぎ臨時総会を閉会した。

県に申請書を提出

宮城県芸術協会は八月三十一日、県に公益社団法人移行認定申請書を提出した。八月十八日の臨時総会で移行申請が承認されたことに伴うもので、今後は県の教育委員会お

各部門の新運営委員

▽四月一日から

【絵画部】小野寺君代、岩澤誠一、数本奈智子、久保田敏、

谷地森真理子【彫刻部】虎尾裕【工芸部】川北京子、種澤

有希子【書道部】池田小沙【華道部】三浦景舟、清水光峰、

高橋理雪、竹内霜光、佐藤華専【音楽部・洋楽】鶴岡たみ

子、渡部勝彦【文芸部】佐藤淑子【茶道部】佐藤宗秀【写

真部】鈴木忠一

▽七月一日から

【茶道部】鈴木晋光

新入会員

【彫刻部】丹野智子（仙台市青葉区※重籍・華道部丹野霞園）

【工芸部】（陶芸）水谷真人（山形県山形市）（木竹芸）

林恵美子（宮城県七ヶ浜町）

絵画・彫刻・写真部門 初めての公募展

絵画・彫刻・写真部門の初の公募展が、芸術祭展示期間に合わせて開催された。絵画部門は宮城県美術館県民ギャラリーで九月二十六日から三十日まで、写真部門と彫刻部門はせんだいメディアテークの芸術祭展示会場で、写真

部門が九月二十八日から十月三日まで、彫刻部門は十月五日、芸術協会が行う事業の公益社団法人への移行に向けて、

公益性を高めることを目的に今回新たに組み込んだ事業で、



① 絵画公募展会場風景
② 写真公募展表彰式
③ 彫刻公募展芸術協会賞の作品

日から十日まで開催された。これらは共に来年度からの

五十一年になろうとする芸術協会史上初めての公募展となる。また、公募展を開催することで会員以外にも広く作品を発表の場を提供し、優れた作品を表彰することにより、県民の芸術に関する資質の向上と人材の育成に貢献しようとするねらいもある。

第49回宮城県芸術祭参加文学散歩

「栃木・茨城文学の旅」

芭蕉のおくのほそ道紀行と滝めぐり

文学散歩ではこれまで主に東北の文学ゆかりの地を訪ねてきたが、今年は栃木・茨城方面に足を延ばし、滝を眺めながら芭蕉の足跡をたどった。

芭蕉が東照宮を参拝後見物した「裏見の滝」に我ら一行29名も向かった。崖に沿う道は足場が悪く、狭く険しい。しかし滝が見えた瞬間疲れは飛び去り、一人の落伍者も無かった事を喜びあった。飛沫が届くほどの近くに滝を仰ぎながら、滝の裏側に入って「暫



芭蕉も訪れた裏見の滝

時は滝に籠るや夏の初め」と詠んだ芭蕉を偲び、滝の裏側から見える光景を想像するの

も豊かなひと時であった。

「遊行柳」は栃木県那須町・芦野の田圃の中にある。稲刈りの近い田と花の盛りの蕎麦畑を左右に見ながら畦道を進むと、桜と大きな二本の柳が緑の木陰を作っており、その下に芭蕉と西行の碑が建っている。謡曲「遊行柳」の舞台で、西行も芭蕉もここに来て

文芸年鑑第43巻を刊行

2012年度の「宮城県文芸年鑑」(第43巻)は10月15日、刊行された。東日本大震災復興元年に編まれた今年の文芸

年鑑には、言葉の持つ力、言葉が与える力を信じる各ジャ

ソルの表現者の作品が多く発表されている。文芸のジャンルに課せられた役割を考え「祈りと復興、絆」を合言葉に大きな輪を広げている。

文芸祭を開催

10月27日戦災復興記念館

今年の文芸祭は、(I)受賞者自作作品朗読と感懐(24年度

芸術祭文芸賞受賞者による自作の発表)、(II)言葉のクローキー(席題の言葉を俳句・詩・川柳・短歌・小説の各部門の五名が限られた時間内でクローキーし、その背景を解説)の二部構成で行われた。

(II)では一般来場者から席題を貰うなど、会場が一体となった充実した文芸祭となった。

吉林省との文化交流 長春で芸協の書道展



書道展の開会式(吉林省博物館)

に友好県省締結以来実施してきた県主催の交流事業の一環で、宮城県芸術協会はこれまで各分野がさまざまな形でこの事業に協力してきた。今回は締結25周年記念の事業で、書を通じた文化交流。芸術協会書道部運営委員の作品三十七点が出品され、吉林省博物館に展示された。

この文化交流には、県から本木隆環境生活部長など、芸術協会から書道部の中塚仁主任以下六名の会員が参加した。領土問題などあったが、一行は熱烈な歓迎を受け、揮毫などを行って友好を深めた。

テーマは「茶道と工芸」 工芸部研究会

平成24年度工芸部研究会は、九月二日「茶道と工芸について」をテーマに、仙台市



茶道具について語る高橋常任理事

泉区の「ギャラリー和楽」(平澤富子会員所有)で開かれた。約四十名の工芸部会員が、茶道関係の作品を持ち寄ってギャラリーに展示。茶道部の高橋威仙常任理事、大和田宗嬌主任らを招いて、日本の工芸文化に深い関わりのある茶道を通して今後の工芸の方向性を探る勉強会を開いた。

事務局 日誌

会務報告

- 6・13 東北・北海道芸術文化団体協議会総会
- 役員選出について
- 平成23年度事業報告及び収支決算について
- 平成24年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
- 8・3 理事会
- 公益社団法人移行申請書の内容について
- 公益社団法人移行に伴う定款の変更案及び関連規程の制定について
- 新入会員(正会員)の承認について
- 8・18 平成24年度臨時総会 第二面に詳細を掲載

後援

- ☆「第3回大州会書作小品展」併催「鈴木隆子作陶展」「遠藤キミ子民芸展」
- 10月4日〜7日 古川市民ギャラリー
- ☆「桃山志野を現代に焼く」陶芸家・藤田登太郎「茶陶展」
- 10月4日〜10日 六幽庵
- ☆平成24年度(第34回) 大伴家持のつどい短歌大会
- 10月7日 東北歴史博物館
- ☆「杜南の篆刻」杜南印社創立30周年記念展
- 10月10日〜14日 東北電力グリーンプラザ
- ☆第19回彩泉会洋画展
- 10月16日〜21日 東北電力グリーンプラザ
- ☆第11回夢・楽描き展(水彩画三グループ合同展)
- 10月18日〜24日 せんだいメディアアテーク
- ☆「歌おうふるさとのうた」世代を越えていま」
- 10月18日 宮城野文化センター
- ☆第40回書道展(宮城書道研究会)
- 10月26日〜28日 登米市迫体育館
- ☆第37回素心会書道展
- 10月26日〜31日 せんだいメディアアテーク
- ☆第37回教育書道研究会学生部書道展
- 10月26日〜31日 せんだいメディアアテーク
- ☆第3回靑画会
- 10月30日〜11月4日 東北電力グリーンプラザ
- ☆歌いつがれゆく日本の歌ーなつかしい歌あたらしい歌ー
- 11月1日 仙台市青年文化センター
- ☆第20回人物画研究会作品展
- 11月2日〜7日 せんだいメディアアテーク
- ☆第8回花友書道展
- 11月6日〜11月11日 東北電力グリーンプラザ
- ☆皖山会・一音舎 箏・三絃・尺八コンサート
- 11月11日 登米祝祭劇場大ホール
- ☆太田ゆり子・鹿野陽子によるコラボレーション「空装」
- 11月15日 仙台市太白区文化センター
- ☆東北書道秀技展
- 11月16日〜21日 せんだいメディアアテーク
- ☆チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ第47回定期演奏会
- 11月18日 仙台市青年文化センター
- ☆第1回緑彩会日本画展
- 11月22日〜25日 東京エレクトロンホール宮城
- ☆第36回一般社団法人二科会写真部東北地区公募展
- 11月23日〜26日 秋田総合生活文化会館
- ☆第43回洋舞合同公演
- 11月25日 東京エレクトロンホール宮城
- ☆第20回宮城シニア美術展
- 11月29日〜12月2日 宮城県美術館県民ギャラリー
- ☆第51回洗心書道展
- 11月29日〜12月2日 仙台市民会館
- ☆混声合唱団クール・リュミエール第46回定期演奏会
- 11月30日 仙台市青年文化センター
- ☆ソプラノ&テノールDuo Concert
- 12月3日 仙台市被災復興記念館

☆福興コンサート天赦の音詩 12月8日 仙台サンプラザ

会員の入賞・入選など

- ◇「ビエンナーレうしく」大賞
- ◇(洋画)佐藤光郎
- ◇第97回院展入選
- ◇(日本画)三浦長悦
- ◇第21回河北工芸展
- ◇(陶芸)審査員奨励賞 小川和子
- ◇(洋画)宮城県知事賞 加藤晋(七宝)
- ◇(洋画)東北電力賞 赤坂弘子
- ◇第80回記念独立展
- ◇(洋画)独立賞 80回記念賞
- ◇高松和樹 佳作賞 星健悦
- ◇第67回行動美術展入選(洋画) 大西ちい子、紺野ミチ子
- ◇二科会(写真)本展入選 尾形昌文、東北公募展河北新報社賞 尾形昌文

受贈書

「東日本大震災詩歌集悲しみの海」(榎富山房インクナショナル)、浅井元義スケッチ石巻Ⅶふるさと石巻・思い出の風景たち(浅井元義)

謹弔

茶道部 (表千家) 柏葉宗千殿	平成23年10月19日
遠藤宗和殿	5月31日
絵画部 (洋画) 渡部りつ殿	6月14日
茶道部 (大日本茶道学会) 名生清仙殿	7月17日
華道部 (小原流) 秋葉霞峯殿	8月9日
華道部 (道風流) 佐藤華畔殿	9月1日

けやきの譜

この夏は、酷暑とロンドン・オリンピックの深夜のテレビ観戦で、寝不足に悩まされた。日の丸と君が代に拒否反応を示す人たちが、五輪ではもろ手を挙げて拍手喝采するのは、変な感じもした▼それはともかく季節は移り、芸術の秋たけなわ。宮城県芸術祭も49回目を迎えて、9月28日の開場式から11月29日の閉会式まで、2カ月間にわたって展開されている▼今回のスローガンは「東日本大震災復興支援」。各部ごとの催しにも、復興を後押しする展示、試みが盛り込まれている。この一文を書いているのは、10月11日。「あの日」からちょうど、1年7カ月が過ぎた。▼この日も岩手、宮城両県では、カメラ付き水中ロボットなども投入し、遺骨、遺留品捜しが行なわれた。この時点で両県ではなお、2560人が行方不明のまま。大震災を風化させてはならない、という思いが一層募る。(恂)